

どの子どもも輝く  
笑顔いっぱい  
とねがわ幼稚園

# とね幼だより

よい頭・よい躰・強い体



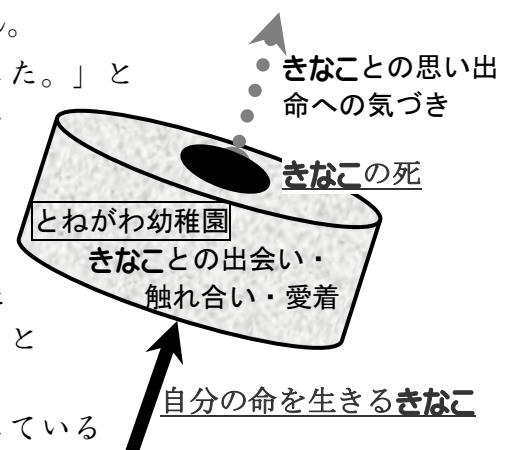
平成31年2月

きなこが亡くなりました。命の重さを感じた日。 園長 笹木 哲

『きなこ』は、幼稚園で飼育しているウサギです。1月30日の朝、園児が登園する前、教育活動の準備や園内掃除をしていた職員が冷たくなったきなこを見つけました。年長児が、当番活動として毎日、交代で世話をしてきました。世話を続ければ愛着がわき、自由時間にきなこの顔を見に行く子もいました。新鮮な青菜やニンジンを自宅から持ってきてくれる子もいました。きなこの死を知らせると、年長児は、「きなこの最後の姿に会いたい」「花を手向けたい」といいます。「お別れの手紙を供えたい」という子もいます。関わりの濃淡はあっても、同じ時間、同じ空間を共に生きてきたきなこの命の終わりに、74名の優しい心が揃いました。

事件事故による死が毎日のように報道される現代では、「死」という言葉を耳にすることに慣れてしまっています。血の通っている命のはずなのに、他人事になっています。家族の単位が小さくなり、愛する者、大切な者との死を、自分事として対面することが少ないのも現代の特徴でしょう。そんな今を生きる園児が、突然のきなこの死をどう受け止めたのでしょうか。命は過去から今、そして未来に続きます。その時間の流れの中で、きなここと出会い、きなこの死に接した子ども達。きなここと過ごした時間は、偶然ですが、自分の心に痛みや悲しみ、「可哀想」「大好きだったよ」と言った感情を揺り動かし、「命」について心を膨らませたに違いありません。

- 「娘は、きなこが死んだ、と昨夜は号泣していました。」とお母さん。翌朝、彼女は花を供えたいと、黄色の花を摘んでくれました。
- 「きなこは、息をしないけれど、死んだんじゃない。天国にいっただけ。」
- 「お家でお手紙を書いてきたよ。園長先生、一緒に飾りましょ。」
- きなこのいなくなったお家の前で、「こういう時は、こうするんだよね。」と手を合わせてお祈りの仕方をお友だちに教える子。
- 「幼稚園のうさぎさんがね、ずっとずっとねんねしているんだよ。もう起きないけれど天国にいるの。」



**虐待は絶対に許さない** 千葉県の子供4年生が、父親の暴力により死亡しました。大変痛ましい事件です。「しつけ」という名目でも、わが子に暴力を振るう、家に閉じ込める、食事を与えない、言葉で脅す、無視する、きょうだい間での差別的扱いをすることは虐待です。それだけでなく、子どもの目の前で家族に暴力をふるうことも虐待に当たります。幼稚園には、虐待の可能性のある場合は、関係機関への通報の義務があります。本園では、どんな虐待も許さない決意をもって子どもを守りたいと考えています。

## とねがわ幼稚園の教育

土の塊を集め、トンネルに落書きをした園児がいます。見つけた保育者は、園児と一緒にトンネルの中をのぞきます。壁面には見事な絵が描かれています。彼は、「山のペン（土の塊）で怪獣を描いたんだ。」と自慢します。

落書きすることが善い悪い、又それを止めることが善い悪いの問題は別として、園児が喜々として楽しむ姿を見て、「困る」と感じる保育者ではなく、園児の気持ちに寄り添い、共に喜ぶことのできる保育者は、登園の自慢の一つです。



**園児が輝く時** ※毎日、HP「園長ブログ」で「その日の写真」を掲載しています。よろしかったらご覧ください。

		
<p><b>朝のマラソン</b> 息が苦しくなっても、前だけを見て、友達や先生と一緒に走ります。走った後はがんばったからこそ達成感です。</p>	<p><b>毎日の水あげ</b> 年少さんが植えたチューリップの球根は、地面の下で膨らんでいるのでしょうか。立春が過ぎ、春が近づいています。</p>	<p><b>靴がそろうと心もそろう</b> 年長児はつばさ北小学校の1・2年生と交流しました。体育館入り口で脱いだ園児の靴は見事に揃っていました。</p>
<p><b>新しいお友だち紹介！</b> ちゅうりっぷ組に山口晋太郎くん、伊得遥陽くん、伊得由隼くんが入園しました。友達が増えました。ちゅうりっぷ組は25名になりました。</p> 		
<p><b>退園したお友だち紹介</b> きく組の斉藤ありささんが、退園しました。全園児数 233名になりました。</p>	<p><b>迅速、的確で、温かな処理</b> バス登園の途中、我慢できず嘔吐した時は、嘔吐した子への気配り、周りの子への配慮、嘔吐物の処理とチームで処理します。</p>	<p><b>身長、伸びたかな？</b> 一緒にいると、気づきにくいものですが、4月に比べるとどの子も大きく成長しています。体だけでなく、心も頭もです。</p>

## プロ野球日本ハム・ファイターズの清宮幸太郎さんが入団当初に受けた取材記事から

大半が野球のことに割かれていましたが、私が心を動かされたのは、家族について語っているところです。「お父さんのようになりたいですか？ そうですね。父も家では普通の旦那さんですよ。母親を立て、仕事は仕事、家は家。温かい家族です。自分でいうのもなんですが、やっぱり子育てを楽しんでいたように思います。自分も家族と過ごす時間がいまでも楽しい。（間）この両親でよかったなあと思います。」

2月の歌は「北風小僧の寒太郎」です。お子さんに教えてもらって、ご家族と一緒に歌ってみてください。